里山に育む生きものたち

36 ムラサキサギゴケ（シソ目　ハエドクソウ科）

学名　Mazus miquelii Makino

写真・文／安　昌美

4月は生命の息吹を強く感じる季節です。比較的温暖な茨城県では、冬から春への季節変化は雪国ほど大きなものではありませんが、誰もが待っていた季節だと思います。田んぼに水が入り、流れの岸辺には春の草が花を咲かせます。最近は秋の稲刈り後、すぐに田が耕されることが多くなり、春にタネツケバナ、ノミノフスマ、スズメノカタビラやスズメノテッポウが田んぼ一面に広がる光景は少なくなりました。今月は春の水田の畔や湿った場所でよく目につくムラサキサギゴケを紹介します。

▼ムラサキサギゴケとは

ムラサキサギゴケはハエドクソウ科に含まれる多年草で、草丈は低いのですが、群生して花を着けている場合は目立ちます。国内では本州・四国・九州に分布し、国外では中国本土・台湾に知られています。生育地は水田の畔など日当たりのよい湿り気のある所です。流れの岸辺や河川敷にも生えます。イネの生育期に水田中に生えることはありません。ほどよく畔の草刈りや、湿地の草刈りなどがされている場所ではいつまでも見られます。茨城県でも茨城町でも各地に見られます。

名前は混乱することもありますが、白花のものがサギゴケ（鷺苔）で、鷺は花の形から、苔は生えている様子からとされます。しかし、白花のものは少なく、写真のような紅紫色の花が普通で、ムラサキサギゴケと呼びます。特に区別しないでサギゴケと呼ばれることも多いです。科はほとんどの図鑑や植物誌ではこれまでゴマノハグサ科に含まれていました。

花は3月から5月で、写真は4月のもので、ヨモギもまだ伸びず、「つくし」が胞子を飛ばし終わり、青いスギナが芽を伸ばし始めのころは花が目立ちます。花が終わってからは注目されません。花が比較的大きいので園芸用に栽培される場合もあります。雄しべは4本ですが長さはどうなっているでしょうか。雌しべは1個で、先端が二つに分かれ、触れると閉じることが知られています。虫媒花で、運ばれてきた花粉を上手に受け取るようになっているのだろうと説明されています。茨城町ではどんな虫が花粉を媒介しているのでしょうか。

▼ムラサキサギゴケの仲間

サギゴケ属には町内ではトキワハゼがあります。トキワハゼは1年草で、花期はほぼ春から秋と長く、花は1～1・2㎝で、ムラサキサギゴケの1・5～2㎝より小さく色も薄いです。また、トキワハゼは匍匐（ほふく）枝を出しません。生育地もトキワハゼは道路脇や庭先、荒地などムラサキサギゴケより乾燥した所にも生え、よく目につきます。

編集・発行／茨城町総務企画部まちづくり推進課
〒311-3192　茨城県東茨城郡茨城町小堤1080　TEL 029-292-1111　FAX 029-292-6748
ホームページアドレス http://www.town.ibaraki.lg.jp/　メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA　茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。（住民基本台帳　平成27年2月28日現在）
◆総人口 33,673人（－17）、男 16,801人（－24）、女 16,872人（＋7）◆世帯数 12,578世帯（－3）　**DATA**

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK ™ 環境に優しい大豆油インキを使用しています